

西普天間基地跡地振興に関する基本的考え方

沖縄県・宜野湾市による「国際医療拠点」の形成に向けた取組を尊重・後押し
～重粒子線治療施設、琉球大学医学部・同附属病院の集積～

【主な論点】

- ・跡地利用の取組の迅速化
- ・公共用地の先行取得の実施
- ・国道58号へのアクセスの確保
- ・国際医療拠点の形成に対する県民・地権者の理解

OHMIC (Okinawa Health Medical Innovation Center) 構想

【背景】

国内の医薬品開発力の強化、健康長寿の復活など

【事業目的】

- ①医療ビッグデータ(米国サンディエゴ海軍医学研究センター等)を活用した新薬の研究開発支援
- ②国際標準の人材育成
- ③沖縄県への地域貢献

【事業展望】

基盤フェーズ(1-3年) 新薬開発に関するデータ提供・共同開発等の開始
 展開フェーズ(4-9年) 新薬開発の新規手法の確立等
 発展フェーズ(10年～) 革新的な医薬品・新産業の創出

【連携】

琉球大学医学部、OIST(沖縄科学技術大学院大学)等との連携

今後の検討課題

1. 跡地利用の取組の迅速化
 - ・返還前の掘削を伴う立入調査の実現
 - ・埋蔵文化財調査の円滑な実施
 - ・合意形成による都市計画決定等の速やかな実施 など
2. 先行取得制度の見直しの検討(期間・面積)
3. 国道58号へのアクセスの確保
(インダストリアル・コリドー南側の早期返還等)
4. 県民・地権者の理解等
「国際医療拠点」の形成が県民福祉の増進や県の振興に及ぼす効果の具体的な説明
スマートコミュニティ(環境負荷低減)の展開

OHMIC構想の課題

1. 新薬開発戦略立案の活性化に向けた新たな特区の施策や日本医療研究開発機構との連携も視野に入れた議論
2. 持続可能で透明性の高い組織形態の検討
3. データ解析環境(高い機密性、複数のデータの統合等)の確保
4. 国内外の研究機関、アカデミア、知的クラスターとの連携

- ◆西普天間住宅地区の跡地利用は先行モデル。跡地利用の推進は国及び地方公共団体の責務(跡地利用特措法)
- ◆OHMICは、米国の協力による独自のプロジェクト
- ◆関係者(地権者・市・県・国)が連携し、跡地利用が沖縄県の振興、わが国全体の経済活性化につながることを強く期待